

<実践報告>

「子どもの心を育てる教師の会」の目的と経過

今田 里佳 信州大学教育学部附属教育実践総合センター

The Purpose and Development of a Study Group for Teachers

IMADA Rika: Center for Educational Research and Training,
Faculty of Education, Shinshu University

Shinshu University, the faculty of Education, Center for Educational Research and Training starts to offer a study group for teachers once a month from November 1999. The purpose of this study group was to provide an informational service of psychology related topics for teachers. It seems like an active study group, which stimulates the participants intellectually.

【キーワード】 信州大学教育学部附属教育実践総合センター 情動的支援 学習会

1. はじめに

近年は、“学校教育受難の時代”であると言える。学級崩壊、いじめ、不登校の増大、学力低下など、教育現場での課題は増え続ける一方で、解決の糸口さえ見つけられないものも多い。子ども達、親たちそして私たちを取りまく日本社会の変化は著しく、その中で多くの学校教育に携わる者たちが肩を落とし、出口の見えない迷路を手探りで進んでいるような状況である。

私たちが経験する急激な社会環境の変化の中では、ゆっくりとした時代変化の中で培われてきた既存の文化基準によって物事を判断したり、決定したりする方法のみによって意志決定がなされていくと、変化に対応しきれない、うまくいかないことが出てきても何ら不思議はない。うまくいかない課題の解決をいかに認識し、いかに展開し、いかに変革していくのかを見極め実践していくためには、教師や教育関係者たちがお互いに支えあって、この困難な時代をうまく乗り切っていくことが大事なのかもしれない。不運にも、教育観などの相違、パーソナリティの相違、時間のなさなどによって、同じ勤務校の中で、お互いに支えあい相談しあうといったことを、気兼ねなくできる環境に恵まれていない場合も

ある。教師同士のつながりももちろん大切だが、難局を乗り切ろうとがんばっている“先生方をバックアップする力”の存在もあれば、課題解決のための実践を少しでも支えることができるのではないだろうか。教育関係者や地域の人々が、教師だけに責任を問うのではなく“傍らから教師を支援する”こともできるはずである。このような視点は、私たち地域の大学が、地域にどうコミットメントしていくのかということに示唆を与えてくれる。

長野県教育委員会の調べでは、県内の小、中、高、特殊学校の全職員のうち 97 年度に「精神障害」を理由に 30 日を越える長期休暇を取った者は 41 人、休職した者は 45 人であった。この精神障害という分類には、心身症も含まれており、他の病気や事故による休暇休職よりも多いと述べている。また、昭和薬科大付属高校の土地教諭の調査では、調査した学校教諭の 3 分の 1 が、ストレスなどが原因とみられる飲酒の問題を抱えていることが明らかになった（土地 1999）。沖縄県西原東小学校の伊良部教頭の行った調査は、経験年数 21 年から 25 年のベテラン教員のバーンアウトの危険性が高いという研究結果を示した（伊良部 1999）。

これら、教師の精神的健康度の低下の問題は、教師個人のメンタルヘルスの問題にとどまらず、教師の職務遂行能力を低減させ、児童・生徒への指導行動の質の低下を引き起こす原因となる。

河村（1996）、河村・田上（1997a,b）は、教師の指導行動が児童の不登校やいじめの指標となりうるスクール・モラルに、大きな影響を与えているとしている。このことは、いじめ・不登校の対策の一つとして、教師への援助活動が行われるべきであることを示唆している。また平成 11 年 10 月に行った、教師支援のためのニーズ調査では、教師が児童生徒への援助を行うために、スーパーヴィジョンやコンサルテーション・カウンセリング・ソーシャルサポートなど、教師としてのエンパワーメントを促進させる支援を求めていることが明らかになった。

これらの社会的環境的背景も考慮に入れて、信州大学教育学部は、平成 11 年 4 月 1 日に、教育学部附属教育実践総合センターを設置し、それにともない、現在の学校で起こっている様々な問題について研究し、地域や学校との連携を深め子どもたちを支援し、又子どもたちを支援する先生方や、保護者の方々の応援をしていきたいと考え、人間分野を創設した。新たな分野の創設であり、その活動は、模索と試行錯誤の中でおこなわれているが、特に、平成 11 年度の活動は、教師支援を中心に展開することとなった。

2. 実践の目的

本実践の目的は、教師、教育関係者が日々の教育実践に応用し使えるような心理学的なテーマの、情動的支援をすることである。副次的には教師同士の学校内・外のネットワークづくりに貢献できることも考慮した。

3. 実践方法

信州大学教育学部附属教育実践総合センターが主催者となり、教員・教育関係者を対象に平成11年11月より、月1回、学校が休みになる第4土曜日の午前中10時から12時に、心理学をテーマにした勉強会を開催する。日程については、会場等の都合により、若干変更される場合もある。

(テーマ)：

勉強会のテーマは、基本的には一回毎に完結するものとし、参加者が、連続して出席できなくとも、理解ができないとか、知らないことに引け目を感じる、継続的にこないと仲間に入れないなどのないよう配慮する。また、参加者の意見をできるだけ取り入れてテーマを決めていくこととした。講義形式のものだけでなく、演習や、参加者同士の話し合いの場も設ける。最初のうちは、心理学を勉強したことがあってもなくても、気軽に参加できるように、基礎的な理論を中心に、分かり易く勉強してもらえるように配慮する。

(参加者)：

長野県内の教育委員会・教育事務所、長野市内の各小・中・高等学校長宛に文書を作成し、参加者の登録を受け付けた。また、平成11年10月30日におこなわれた信州大学教育学部附属教育実践総合センター人間分野創設記念講演会の会場において参加者の登録を受け付けた。第2回目からは、参加登録者に対して開催案内を送付することとした。参加登録は随時受け付ける。

(会場)：

当初参加者20~30名を見込み、西館502教室を使用。第2回目以降、参加者が多く、収容しきれないため、図書館2階の教室を会場とした。会場内にはお茶やお菓子の用意をし、気楽に参加できる雰囲気を作る努力をしている。

(話題提供者)：

附属教育実践総合センターおよび学内の心理学系教官、学外の講師などからニーズにあった話題提供をしていただく。

(運営)：

基本的には附属教育実践総合センターの人間分野担当が、名簿の整理、会場の手配、文書の作成・発送、話題提供者の依頼などをやっているが、会当日の資料の準備、案内状の送付に関しては、参加者中の数名のボランティアの先生方が中心になり運営している。

(ホームページ)：

都合により勉強会に参加できなかった人たちにも、情報が入手しやすいように、附属教育実践総合センター・人間分野のホームページのところに、会のホームページを立ち上げ、会の予定や、勉強会で配付された資料、話題提供者の紹介などの情報を提供している。ホームページの運営は、事務局である今田と、会に参加している先生でコンピューターの操作や情報通信の分野に明るくボランティアをしてくださる方が行っている。

4. 会の運営 (実践)

平成12年3月末までに、全5回、以下のような月日・テーマ・話題提供者・内容・参加人数で開催された。

開催月日	テーマ	話題提供者	内容	参加人数
平成11年 11月27日	カウンセリング 概論(1)	信州大学教育学 部助教授 高橋知音	精神分析・来談者中 心療法	48名
平成11年 12月25日	カウンセリング 概論(2)	信州大学教育学 部助教授 高橋知音	行動療法・認知行動 療法	62名
平成12年 1月22日	カウンセリング 技法(1)および 懇談会	信州大学教育学 部教授 筒井健雄	フォーカシング	51名
平成12年 2月11日	カウンセリング 技法(2)	信州大学教育学 部教授 川島一夫	行動変容	52名
平成12年 3月25日	特別講演会	東京都立足立西 高等学校教諭 大野精一	学校現場における私 の相談実践について	52名 (内会員4 3名)

(参加登録者)

平成12年3月末現在参加登録者数96名。(小・中・高・養護学校・専門学校の教員および教育委員会所属の主事から構成され、管理職・養護教諭の登録もある)

(配慮事項)

この会は、あくまでも、教員・教育関係者の自主的な勉強会であり、附属教育実践総合センターは、その自主性をサポートするという立場でかかわっていたいと考えている。なぜならば、ただ与えられる研修であれば、県や市町村の教育委員会や、教育総合センターが、その役割を担っているからである。従って、参加者の自主性が阻害されないよう、いくつかの配慮をしている。例えば、会員の中には、校務扱いで、出席をすることを望む場合があり、そのような会員には、所属学校長宛に、毎回参加案内を送付するなどである。また、当日の出席が不可能な場合でも、後日研修を受けたいという意欲的な会員には、実践センターを利用して後日研修が可能ないように、ビデオテープを撮影し、保管している。

5. 参加者の感想

参加者の声を、会の運営に反映させていくため、会終了後に、感想や、今後取り上げてほしいことについて書いて提出をしてもらっている。第3回については、懇談会がおこなわれ、時間的な余裕がなかったために感想を提出していただくことができなかったが、それ以外の会について以下のような感想が得られた。

(第1回・感想)

内容に関するもの

- ・今まで難しいと思っていたカウンセリング理論を本当にわかりやすくご説明いただきまして非常にありがたかった。理論を理解すること大切だと思います。基礎の概論から入ったのがよかった。現場の子どもをイメージしながら聞くことができた。
- ・現場にでてからもう一度理論を学ぶことの大切さを痛感し今回参加しました。今後も、毎回とはいわなくても、学部の先生方に教えていただければと思います。
- ・今、教員になって具体的な技法に触れる機会はあるものの、その根拠になっている理論をしっかり勉強する場がなかったので本当にありがたい会でした。全く基礎知識がなかったので、例を挙げながら話していただき、よくわかった。

会の在り方に関するもの

- ・現場の教師を対象にしたこのような企画を大変有意義に思います。暖かな気配りで気持ちのよい研修ができました。
- ・自主的な参加のため、気持ちよく話が聞けた。
- ・もう少し時間がほしい感がありました。
- ・久しぶりの講義を聴いて心地よい満足感を味わっています。学生の頃と違い、自分が求めて参加し、得るものがたくさん。来てよかった、また来ようと思っています。
- ・もっとゆっくりやり、質問などもできれば良いなと思います。予習したいので参考図書など事前に知らせていただきたい。

話題提供者に関するもの

- ・カウンセリングについては、理論的な部分は「難しい」印象ですが、高橋先生の話はとても分かり易かった。
- ・高橋先生の90分以上のご講義、スタイルやレジュメに関しても、とても参考になりました。
- ・高橋先生のユーモアあり、笑顔のある講義を受講し参加した意義があった。カウンセリング的講義を今後の授業に取り入れたい。カウンセリングの具体的な演習を取り入れてほしい。

自分に与えた影響に関するもの

- ・話を聞きながらいろいろな生徒の顔が浮かびました。高橋先生のにこやかなお話の雰囲気は、自分も生徒と話をするときこんな雰囲気ですれば、何でも相談できるのかなーと感じました。プラス、知識、理論があれば本当に心強いです。
- ・自分自身が今までやってきたことに対する確認のためにもとてもよかったと思います。現場にでると、なかなか自分の勉強をする機会がないので、とてもありがたいし、はつきり言って気分転換にもなります。

(第2回・感想)

内容に関するもの

・参加し勉強になった。子供たちに対するとき今日のような話を知っている事は大きな違い

・具体的な研修会に参加できたことに充実感を覚える。後半、実習が入り、勉強になった。大学の講義よりも濃い感じでしっかり理解するには難しいと思った。演習、参加者同士のコミュニケーションをもっと取り入れてほしい。

・具体例、ビデオ等で分かりやすく勉強になった。

・理論をそのまま難しい言葉で説明されても理解できないと思っていたが、具体的な場面を挙げて説明してもらいよくわかった。理論だけ聞くとなんだか遠い世界のような気がするが、具体例を挙げてもらうと、とても身近に感じられ、気持ちも楽に勉強できた。

・理論が実践に結びつくことの醍醐味を自分なりに経験しているためとても意義ある時間を持てることをうれしく思う。

・理論的なことを勉強する機会が少ないのでたいへん貴重だと感じている。以前からこういう勉強の場がほしいと思っていた。

会の在り方に関するもの

・ある程度の会が進んだら少人数によるワークショップを開いてもらえたらと考える。生徒指導の実践で聞きたい場面があると思う。相談に乗ってほしい。

・一人で本で勉強するのではなくゆったり暖かな雰囲気の中で実習を含めて学習できてよかった。

・希望：グループ毎に分かれて、考えを聞きあうのもやってみたい。机の形を四角とかのグループ型にするのはどうですか。

・現場に出てから勉強をする機会は限られていて自主的にこんなふうに参加できる会はほんとうにありがたくてうれしい。

・自分から学びに来たという意識と自分の生活や生徒と接する中で非常に役に立つのではという期待の中でとてもいい会になっていると感じる。

話題提供者に関するもの

・高橋先生の講義は質問しやすくとても学習する気分になる。

・高橋先生の話はとてもわかりやすく楽しい。理論と実践がよく結びついて考えられた。現場に出てから勉強をする機会は限られていて自主的にこんなふうに参加できる会はほんとうにありがたくてうれしい。

・先生のリラックスした雰囲気、服装、言葉使い、表情、ユーモア。教材の、資料、ビデオ、パソコンによる説明。話の中身の学校の具体例、質問を聞く、グルーピングなど、これからもよろしく。

自分に与えた影響に関するもの

・子供の心というより自分自身のカウンセリングの時間になった。

・確実に生徒を支えてあげられるとは思わないが、生徒に接するとき、自分の自信になるのではないかと思う。

・日頃学校で行っている活動が、心理学的な裏づけが認められると知り、自分の指示の出し方等を振り返ることができた。

・「子どもの心を育てる教師の会」と言うよりも、私の心を育てる私の会という感じ。この1ヶ月の間に溜め込んだ悶々とした思いの対処のためにある大切な2時間。生徒のためでもあるが、まず自分(教師)の心にゆとりがなければ、生徒たちを受け止めることはできないとつくづく思う。「ねばならない」という発想はゆとりのない証拠とも思う。観点を変える方法を教えてもらったので、次の1ヶ月をがんばる。

・実際すぐに応用していけそうなことを教えていただいた。それと共に自分自身のあり方に引き寄せて考えさせられた。「楽に生きることができること」そんな言葉を思い浮かべた。

(第4回・感想)

内容に関するもの

・非指示的カウンセリングの後、どう一歩を踏み出すか考えていたところだったので、興味深かった。特殊学級の教室で実験的に行ってきたことが行動変容の理論に裏打ちされていたことがわかり納得できた。

・教育実践に携わって考えていること(ほとんど勘)を科学的に明らかにしてもらった。この時間(2時間)でやってしまうには内容もったいない。

・たいへん勉強になった。心が変われば行動も変わると考えていたが、行動についても注目して、望ましい行動に対して強化する必要性を学んだことが新鮮だった。「子どもの行動を育てる教師の会」はどう？

・日ごろ行っていること、悩みに理論的な解釈がなされることはとても大切に、明日からの仕事に励みが出る。

会の在り方に関するもの

・この会はいろいろな先生に話を聞けることがいい。

・具体的な事例もありとても勉強になった。多くを盛り込むより、焦点化された2時間であるほうがいい。この話についても更に継続して聞かせてほしい。

話題提供者に関するもの

・川島先生の理論とても面白かった。ぜひ、また聞きたい。共感できる部分多かった。8年前に大学で聞いたときよりすばらしかった。現場で経験したことで、具体例を頭に思い浮かべながら聞いた。とても納得できた。

・先生の考えをはっきり言っていただきそれがまた新鮮だった。

自分に与えた影響に関するもの

・充実した時間だった。学校では罰は使わず、強化のみを使っていくということが印象的だった。「教師が自分なりの子どもに対する強化を考えるのが一番」という教師のあり方まで話してもらい、自分自身のあり方を考えるきっかけになった。

・社会という目で見ると、子どもたち、学校、教師などのあり方を考える機会となった。学

校、クラスのみが目が向いて視野が狭くなっていた。

- ・学校を考え直したり，親として考え直したりする場になった。
- ・今までの生徒に対する行動に反省する点が多々ある。自分があまり好ましくないと感じたことは，今度生徒と触れ合うときに注意しようと思った。
- ・子ども一人一人にどんな誉め方をしていくのかとか，教師は強化人間というのを聞いて自分の思い通りにしようとして罰ばかりを与えている日々を反省した。

(第5回・感想)

内容に関するもの

- ・日本の教育相談の課題を明確にさせていただいたのが参考になりました。特に具体的方策を示すことに興味を持ちました。
- ・教育相談の学校での組織作りの大切さを思っておりますが，PR，広報活動の大切さがわかりました。教員との仲間づくりのノウハウもわかったような気がします。
- ・「関わり，しのぎ，つなげ，耕す」という言葉が大変印象に残りました。
- ・学校教育相談の考え方，大変勉強になりました。
- ・実践の中では，悩みながら進めていくことに意味があると，さらに思える内容であったと思います。
- ・学校現場で実践を重ねながら理論化していくことが大切であると大野先生の話からよくわかりました。理論づくりの土台になるのが「自分のスタンス」と「仲間づくり」であるが，やはり一番大事なのは「自分の生活がきちんとしているか」という点にかかっているなあと実感しました。

会の在り方に関するもの

- ・とてもいい講演会で，いいお話が聞けて感謝しています。大野先生のような方のお話をもっと聞きたいと思います。
- ・理論の大事なことがよくわかりました。こうして勉強させていただく機会を作っていただき本当にありがたいです。
- ・教師のアイデンティティを持ちながら理論化をしていくという方向はとても大切な点だと思います。この会の方向とも一致するように感じます。

話題提供者に関するもの

- ・教育相談を学校で進めるために，勝負する気概を述べられた点がさわやかでした。
- ・大野先生にお目にかかれて，お声を聞くことができうれしく思っています。」
- ・大野先生，すごい人ですね。本を買って勉強したいと思います。理論の裏づけ，必要だと思いました。
- ・学校現場で実践を重ねながら理論化していくことが大切であると大野先生の話からよくわかりました。

自分に与えた影響に関するもの

- ・すばらしい実践で、私のやっていることを考えるとパニックです。「乗りかかった船からは下りない」「打たれ強くあるべし」の最初の教えからうなずきつづけの2時間でした。
- ・自分の勉強不足を感じ反省しました。
- ・学校が変われば子どもも良くなっていきますよね、それには仲間を増やすことですよね。「仲間とは敵対しない人」といわれて頭をがーんと殴られる感じでした。広い心に敬服です。

6. まとめと今後の課題

子どもの心を育てる教師の会は、これまで、5回開催され、心理学や、カウンセリングに関する基礎的な理論や技法に関して勉強した。全くのボランティアで話題提供をお引き受けくださっている先生方のお話は、理論を参加者が自分たちの現場に当てはめて考えられるようにとよく工夫されていて、ボランティアでお願いするのが気が引けてしまうほど充実した内容であった。第3回におこなった懇談会では、4つのグループに分かれてそれぞれがこの会に期待していることなどを話し合い、参加者同士のグループ性を高めたのではないと思う。第5回は、カウンセリング学会長野県支部の共催を受け、講師の先生を学外からお招きした講演会となった。参加者たちと同じ教員という立場で、ご自分の努力で勉強し、生徒指導・教育相談を実践して学校教育相談の理論化を試みる大野先生のお話は、今年度のまとめとして、また、参加者の学習意欲を喚起するものとして有意義であったと思われる。参加者は、毎回50名前後に落ち着いてきており、会場設定や資料の用意など、目途をつけやすくなってきている。

平成11年度における「子どもの心を育てる教師の会」の立ち上げと継続は比較的順調に進んでおり、附属教育実践総合センター人間分野初めての教師支援の試みとして、成功であると考えられる。しかしながら来年度以降もこの会を継続していくためにここで、いくつかの課題があることを確認しておかなければならないであろう。まずひとつは、年間を見通して開催計画を立てることである。ある程度系統立てて、心理学について勉強してもらうことが必要になってくるのだろうかということである。理論の勉強会にとどまらず、理論を生かした教育現場での実践方法などについても、勉強する機会がもてるように工夫しなければならない。このことは、話題を提供してくださる先生方との交渉とも関連してくる問題であり、全くのボランティアでお願いする話題提供の回数にも、限度があるだろうことを認識しなければならない。現在この会は、附属教育実践総合センターのサービスであると位置づけ、参加費無料で行っているのだが、登録者数が約100名ほどになり、通知の郵送費や、資料の印刷費も、大きな金額となってきている。また、話題提供をしていた先生には、無報酬で、難しいことを分かり易く、様々なプレゼンテーション器材を用いて、レジメはフロッピーで早めにご覧くださいなどとたくさんのお願いをすることもあり、平成11年度のこの会の在り方が正しいのかどうか検討しなければならない。このような課題は、平成12年度の会の開催に向けて早急に検討すべき点であると考えている。

文献：

伊良部正昭 1999 教師のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因についての一考察 琉球大学修士論文

河村茂雄 1996,教師のPM式指導類型と勢力資源および児童のスクールモラルとの関係についての調査研究 カウンセリング研究 29 187-196.

河村茂雄・田上不二夫 1997a, 児童のスクール・モラルと担任教師の勢力資源認知との関係についての調査研究 カウンセリング研究 29 44-54.

河村茂雄・田上不二夫 1997b, 児童が認知する教師のPM式指導類型と児童のスクール・モラルとの関係についての考察 カウンセリング研究 29 55-59.

上地隆裕 1999,沖縄県の教職員の飲酒状態についての研究 第26回沖縄心理学会発表論文集 34-35.

(2000年3月31日 受付)